

みこしば つやさぶろう い よこいどぐん
御子柴艶三郎の井／横井戸群

命をかけて横井戸を掘った水神様

経ヶ岳山麓に広がる南箕輪村から伊那市にかけての扇状地は、保水力が弱く、常に灌漑用水が不足する土地であった。このため段丘崖下に湧き出す水脈を頼りに、横井戸を掘って水を集め、細々と飲用や、灌漑に利用してきた。多くの井戸は明治始めから明治30年ころに掘削され、南箕輪村には苦勞して掘った21本以上の横井戸があったが、1928(昭和3)年に、西天竜一貫水路が完成した後は、あまり活用されなくなった。南箕輪村役場付近には現在も横井戸が確認できる場所がある。また、役場の北西1kmほどの道路脇には、道路改修工事の際に見つかった「東垣外横井戸」の碑が立っており、東屋もある。

現在確認できる横井戸の中で代表的な井戸が、伊那市上荒井地区の「御子柴艶三郎の井」である。御子柴艶三郎は私財を投げ打ち、神に命を捧げる約束のもと横井戸の掘削を行った。1898(明治31)年、苦勞の末に水脈を発見。1900(明治33)年12月、約束通り命を絶った。この井戸は水量が多く、一帯の約40haが水田となった。水神宮・碑・穂坂式分水タンクなどが現存する。



水神宮と御子柴艶三郎の頌徳碑



穂坂式分水タンク(分水槽)(艶三郎の井)



東垣外横井戸(1898(明治31)年完成)の一部が発見され、「横井戸跡」の碑が建てられた



南箕輪村役場付近の横井戸

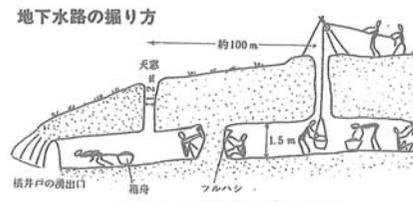
information

- アクセス
(艶三郎の井)
伊那ICから5km
車→10分
- 所在地
伊那市荒井



横井戸
(マンボ)
の技術

長い横穴を地下に掘って地下水を集める施設を「マンボ」という。縦穴を二つ掘り、両方の穴から横穴を掘ってつなげる。次々に縦穴を掘って横穴を伸ばしていき、地下水面に届くまで伸ばしていく。湧き出した水は横穴を通して地表に導く。発祥はイランといわれ、2500年前から始まった。水の得られない砂漠で発達した土木技術で、わが国へはシルクロードから伝来し、江戸時代の終わりから掘られ始めた。地形から見て地下水がたまっていそうな所に向けて高さ1.5m、幅1.2mほどの穴をツルハシ1本で掘り続けるが、1日に2mしか掘れなかった。



地-6 地下水路の掘り方
「伊那谷の自然18号」(1988年)より



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)